

第2章

年表でみる

日本盲導犬協会 50年のあゆみ

本章では、日本盲導犬協会 50 年のあゆみを年表で振り返ります。

当協会の動きとならんで、関連事業の動き、法律や社会の動きをともにたどることで、

国内や海外における障害者支援の大きな潮流と結びつき、

互いに影響し合いながら事業展開をしてきた当協会の変遷が見えてきます。

このあゆみを、確実に未来へとつなげていきます。

日本盲導犬協会 設立前の流れ



- | ● 視覚障害・盲導犬関連 | ● 法律 ● 世の中 |
|--|---|
| ● ドイツで「オルデンブルグ盲導犬学校」設立 | ● 1月 国産初の軍用航空船「雄飛」が飛行に成功 |
| ● ドイツで「ポツダム盲導犬学校」設立 | ● 9月 関東大震災発生 |
| ● アメリカで盲導犬訓練学校「シーイング・アイ」設立 | ● 3月 総理官邸が竣工 |
| ● 「イギリス盲導犬協会」設立 | ● 12月 犬養毅内閣成立(翌1932年、五・一五事件発生) |
| ● 盲導犬が初来日
—アメリカの青年ゴールドン氏と盲導犬オルティが横浜港に | ● 1月 厚生省設置
● 7月 東京オリンピック(1940年)開催権を返上 |
| ● 盲導犬4頭をドイツから輸入
—リタ、アスター、ボド、ルティ | ● 2月 日本政府が国民に対し、金製品回収・強制買い上げを実施 |
| ● 盲導犬「千歳」誕生
—輸入犬ボドと国内軍用犬の母犬との間に | ● 4月 小学校が「国民学校」に改められる |
| ● オーストラリアで「ロイヤル盲導犬協会」設立 | ● 4月 五百円紙幣の発行 |
| ● 「南アフリカ盲導犬協会」設立 | ● 2月 NHKが東京地区で日本初テレビ本放送開始 |
| ● 8月 塩屋賢一氏(アイメイト協会前理事長)の訓練によって国産盲導犬第1号チャンピイが誕生 | ● 10月 初の五千円紙幣(聖徳太子)発行
● 12月 百円硬貨発行 |
| | ● 4月 皇太子明仁親王(今上天皇)と正田美智子さんが結婚の儀、ミッチー・ブーム |
| | ● 10月 東海道新幹線(東京 - 新大阪間)開業
● // アジア初となる東京オリンピック開催 |
| | ● 11月 プロ野球第1回ドラフト会議 |

昭和時代 設立・創生期

	● 協会の変遷		● 日本盲導犬協会の年度育成頭数
1967 (昭和42)	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月 盲導犬学校開校式および入校式(訓練犬の入所式) ● 8月10日 財団法人として正式許可を受け、財団法人日本盲導犬協会設立 ● 主たる事務所を東京都渋谷区上原に設置 ● 12月 日本盲導犬協会付属盲導犬学校、建設 	 <p>財団法人日本盲導犬協会 設立許可証</p>	 <p>8</p>
1968 (昭和43)	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月 第1回盲導犬学校卒業式(共同訓練を終えたユーザーを認定) — 渋谷駅前にて卒業記念の街頭行進を実施 — 卒業記念行事「御岳山登山」、御岳登山鉄道に乘車 ● 東京都身体障害者運動会に参加 ● 「第3回都民と都政を結び集い」に参加、美濃部亮吉都知事と懇談 		 <p>5</p>
1969 (昭和44)	<ul style="list-style-type: none"> ● 協会会報第1号発行(部数3,000部) ● 8月 東京ライオンズクラブ、日比谷公園内に「乙女と盲導犬の像」(橋本次郎・作)を建立 ● 東京都が盲導犬貸与事業を開始 ● 日本自転車振興会(現・公益財団法人JKA)による補助事業を実施 — 2か月間にわたる世界6か国の海外視察および研修を実施、幼犬を購入 ● 幼犬収容棟の完成 		 <p>25</p>
1970 (昭和45)	<ul style="list-style-type: none"> ● 6月 運輸省へ「盲人に付き添う盲導犬の添乗に関する願いの件」を陳情、5万人の署名添付し提出 ● 9月 訓練責任者・塩屋賢一氏が脱退 ● 訓練士研修生4人も相次いで脱退 ● 盲導犬事業全般を支援指導する団体として事業展開へ 		 <p>12</p>
1971 (昭和46)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ハーネスホーム」建設事業を計画(3か年) ● 10月 広報誌『BULLETIN』第1号発行 ● 1円募金箱「ハッピー君」無料配布 — 募金運動展開により募金口数404件に ● 社団法人東京都獣医師会(現・公益社団法人)、「盲導犬光の箱」設置 ● 協会内に「盲人行動研究所」を設置 — 国立機関の協力を得て盲導犬・白杖の研究実施 		 <p>11</p>
1972 (昭和47)	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月 第1回盲導犬国際会議(フランス・カンヌ開催)にアジアから唯一出席 — 広瀬エミ子事務局長が参加し英文パンフレット提出 ● 海外から専門家を招いて超音波メガネの研究 		 <p>1</p>

1967  1972

● 視覚障害・盲導犬関連

● 法律 ● 世の中

- 3月 日本初の自動改札機が阪急千里線・北千里駅に設置
- 8月 日本初の国際クレジットカード発行

- 4月 日本初の超高層ビル「霞が関ビル」完成
- 10月 川端康成がノーベル文学賞受賞

- 6月 日本初、新幹線ひかり号への盲導犬乗車が試験的に許可される
- 8月 国鉄より盲導犬の車内持ち込みについての正式な許可が下りる

- 1月 東大安田講堂事件
- 7月 アポロ11号が人類初の月面有人着陸

- 交通機関や公共の施設に犬をともなって出入りすることが日本国有鉄道の協力により実現
- 9月 中部盲導犬協会(現・社会福祉法人)設立
- 11月 札幌盲導犬協会(現・公益財団法人北海道盲導犬協会)設立
- 社会福祉法人日本ライトハウス盲導犬訓練事業開始

- 5月 「心身障害者対策基本法」成立(1993年11月「障害者基本法」に改称・改正)
- 3月 日本万国博覧会(大阪万博)開幕
- // 日航機よど号ハイジャック事件

- 10月 財団法人東京盲導犬協会(現・公益財団法人アイメイト協会)設立
- **全国の盲導犬実働頭数、100頭に至る**
- 国鉄より「盲導犬の車船内の持ち込みの試行」についての通達
一列車船内への盲導犬の同伴について1年間試験的に実施
- 協会を脱退した訓練士らにより盲導犬総合センター設立するも、後しばらくして解散

- 6月 京王プラザホテルが開業。超高層ビル第1号
- 10月 NHKが全時間、総合テレビの番組をカラー化

- 7月 第1回盲導犬国際会議(フランス カンヌ開催)
- 8月 名古屋市交通局、盲導犬の車内持ち込みを承認通達
- 10月 豊橋鉄道(株)、盲導犬の車内持ち込みを承認通達

- 1月 グアム島で元日本陸軍兵士の横井庄一さん発見
- 2月 札幌オリンピック開催
- // あさま山荘事件
- 10月 日本の鉄道開業100年

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

1973
(昭和48)

- 盲導犬の集団健康診断を実施(以降慣例事業とする)
- 盲導犬の共同墓地を確保



1974
(昭和49)

- 2月 小金井訓練所開設
- 多和田悟(現・協会理事)小金井訓練所に入所



1975
(昭和50)

- 1月 英国盲導犬協会よりA.J.フィリップソン氏を招致
一盲導犬訓練士指導者講習会を実施



1976
(昭和51)

- 日本盲導犬協会「北陸盲導犬訓練所」(後の富山支所)開設



1977
(昭和52)

- 初代理事長、迫水久常氏が急逝



1978
(昭和53)

- 1月 第2代理事長 佐藤三蔵、就任
- ボランティア活動集会「盲導犬サークル」発会式
一男女28名
- 道路交通法の身体障害者保護項目として、
「盲導犬」の文言を挿入するよう改正を要望
- 12月 国家公安委員会から盲導犬訓練法人
および盲導犬育成施設の指定を受ける



1979
(昭和54)

- 東京都動物保護管理協会(現・一般社団法人家庭動物愛護協会)主催
「動物フェスティバル」に協力



1973  1979

● 視覚障害・盲導犬関連

- 2月 東京都交通局より都営交通機関における盲導犬の同伴乗車が認められる
- 6月 国鉄旅客営業取扱基準規定を改正
—盲導犬同伴での列車乗車が全国的に認められる
- 6月 全国盲導犬協会連合会発足(6協会)
- 「ロイヤル・ニュージーランド盲導犬サービス」設立

● 法律 ● 世の中

- 1月 建設省が公営住宅における盲導犬の飼育を認める通知
- 7月 カンファー映画の第一人者、ブルース・リーが死亡
- 10月 江崎玲於奈のノーベル物理学賞受賞が決定

- 4月 東京都内私営バスへ盲導犬乗車が認められる
- 11月 仙台市内交通機関へ盲導犬乗車が認められる
- // 財団法人栃木盲導犬センター(現・公益財団法人東日本盲導犬協会)設立

- 10月 プロ野球、讀賣巨人軍の長嶋茂雄選手が引退

- 9月 日本電信電話公社が「プッシュ式公衆電話機」を発売

● 盲導犬に関する国際会議(ロンドン開催)

- 4月 盲導犬使用者が盲導犬同伴で国会に入る

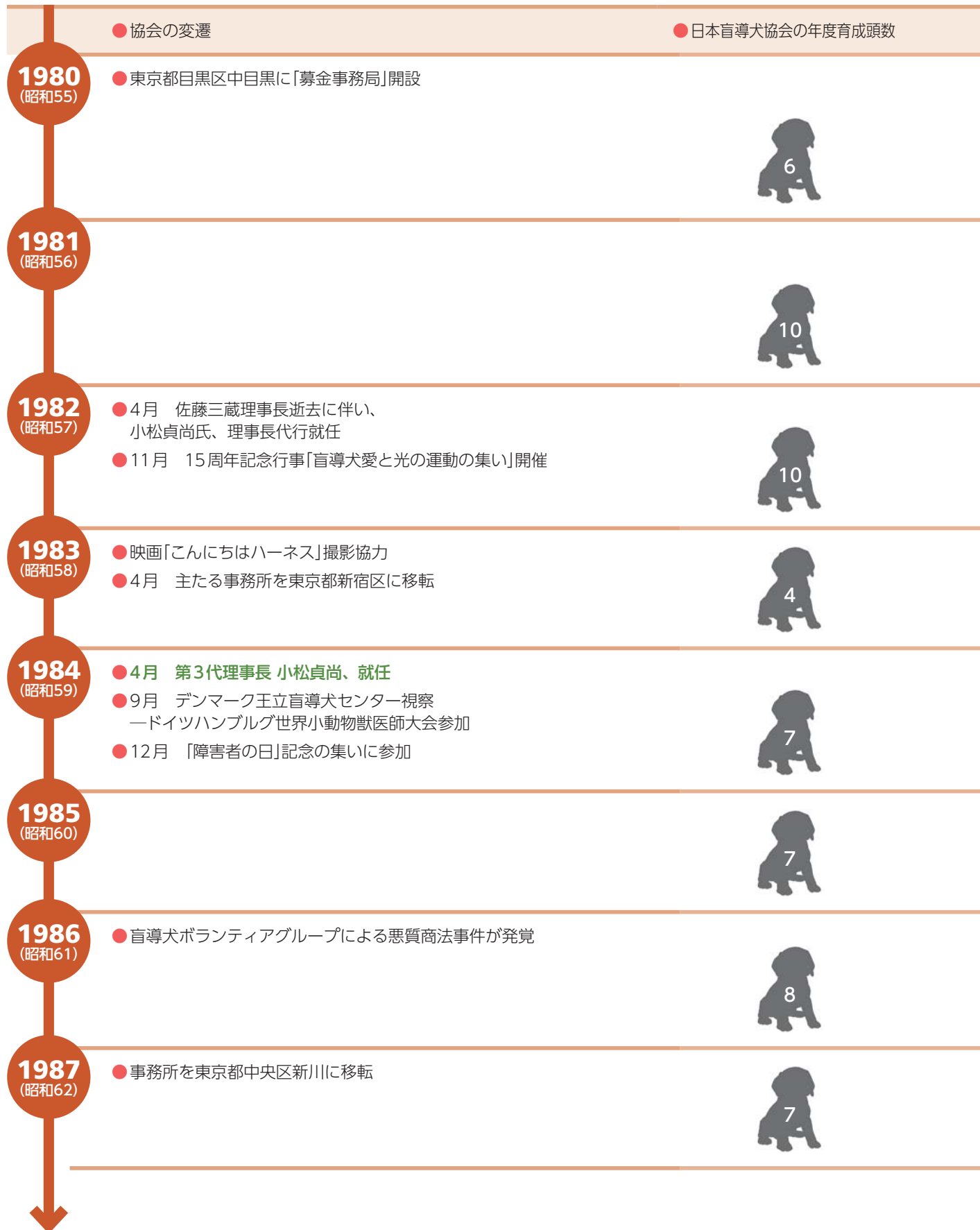
- 5月 登山家・冒険家の植村直己氏が1万2000kmの北極圏犬ゾリ横断を達成
- 7月 ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕

- 7月 日本初の静止気象衛星「ひまわり」打ち上げ
- 10月 白黒テレビ放送が廃止(完全カラー放送へ移行)

- 3月 運輸省通達により、盲導犬のバスおよびタクシー乗車が認められる
- 12月 道路交通法改正、施行
—盲導犬の保護条例規定、初めて法的に盲導犬の存在が認知される
- 1月 公共広告機構(現・公益社団法人ACジャパン)が東京事務局(現・本部)を設置

- 厚生省、身体障害者社会参加促進事業のメニュー事業に「盲導犬育成事業」を設定
- 7月 ソニーがヘッドホンステレオ「ウォークマン」発売

昭和時代 展開期-2



1980 1987

● 視覚障害・盲導犬関連

- 10月 国鉄、盲導犬使用者に関する取扱規則を改正—指定事業者の盲導犬使用者による乗車認可へ、航空・私鉄・バスもこれに準ずる
- 11月 財団法人関西盲導犬協会(現・公益財団法人)設立

● 法律 ● 世の中

- 9月 環境庁、全国の国民宿舎に「盲導犬使用者の宿泊」に協力を求める通達
- 5月 JOC総会で日本のモスクワ・オリンピック不参加が決定
- 12月 ジョン・レノン銃殺事件

- 「アイルランド盲導犬協会」設立
- 航空3社、盲導犬搭乗時の「口輪装着の義務」軽減

- 1月 厚生省、「盲導犬を伴う視覚障害者の旅館・飲食店の盲導犬の利用」について協力を求める通達
- 7月 ニューヨーク・タイムズ紙が「原因不明の癌^{がん}」発見報道。エイズの発見
- // ダイアナ妃、チャールズ皇太子と結婚

- 10月 ソニーが世界初のCDプレーヤー発売

- 盲導犬に関する国際会議(ウィーン開催)
- 9月 財団法人福岡盲導犬協会(現・公益財団法人九州盲導犬協会)設立

- 映画「こんにちはハーネス」公開
- 4月 東京ディズニーランド開園

- 「カナダ盲導犬協会」設立
- 5月 航空3社、盲導犬搭乗時の「口輪装着条項」撤廃
- 盲導犬国際交流セミナー開催(東京開催)

- 8月 スペースシャトルディスカバリー、初の打ち上げ成功

- 3月 国際科学技術博覧会「つくば'85」開催

- 盲導犬に関する国際組織創設に関する国際会議開催(イギリス ロイヤルレミントンSPA)
- 運輸省、盲導犬使用者の乗合バス乗車に関する新通知—口輪装着を撤廃

- 2月 泉重千代さんが120歳で死去
- 5月 先進国首脳会議(東京サミット)開催

- 7月 世界の人口が50億人突破
- 11月 大韓航空機爆破事件

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

1988
(昭和63)

- 10月 韓国ソウルパラリンピック開会式の行進に協会訓練士参加
- 12月 茅ヶ崎訓練所開設



1989
(昭和64、平成元)

- 3月 主たる事務所を東京都渋谷区上原から新宿区歌舞伎町に移転
- 4月 第4代理事長 木村喜光、就任
- 大手各スーパーの店頭で募金箱設置
一西友各店、忠実屋、ジャスコ、いづみや
- 「NICE RIDE 募金」「ガイド募金」二大募金活動開始
- ユーザー対象研修旅行を「あゆみ荘」(横浜)で実施
- 8月3～15日 玉川高島屋「世界の名犬・愛犬展」にて実演
- 財団法人栃木盲導犬センターと委託犬システムの契約を締結
- 12月 第5代理事長 羽田孜、就任



1990
(平成2)

- 公共施設・宿泊施設向け「盲導犬受け入れに関する要望書」を運輸省・厚生省・業界団体等へ提出、改善を要請
- 評議員会(31名)を新規発足、協会運営の充実を図る
- 広報紙『盲導犬くらぶ』創刊
- ユーザー会「あゆみの会」(後に「えみの会」に名称変更)発足



1991
(平成3)

- 1月 主たる事務所を東京都新宿区歌舞伎町から渋谷区西原に移転
- 7月 オーストラリア王立盲導犬協会を表敬訪問
- 8月 オーストラリア王立盲導犬協会から繁殖担当部長来日
- 11月 羽田孜理事長退任に伴い、大関幸一氏、理事長代行就任



1992
(平成4)

- 2月 協会ユーザーによる組織「あゆみの会」結成総会、34名参加
- 協会設立25周年記念、全国キャンペーン実施
一全国小学校盲導犬キャラバン、ウォークラリー、募金活動、盲導犬同伴可ステッカー・ポスター配布、全国のスーパーや商店約4000店に募金箱設置など



● 視覚障害・盲導犬関連

- 盲導犬国際交流セミナー(京都開催)

● 法律 ● 世の中

- 3月 青函トンネルが開業
- 10月 韓国ソウルパラリンピック開催

- 国際盲導犬学校連盟(現・国際盲導犬連盟 IGDF = International Guide Dog Federation)設立
—4月の最終水曜日を「国際盲導犬の日」に制定
- 第1回「盲導犬歩行指導員研修会」開催
—以降、第6回まで毎年実施

- 厚生省、再度「盲導犬を伴う視覚障害者の旅館・飲食店の盲導犬の利用」について協力を求め通達
- 1月7日 昭和天皇が崩御、翌日に元号「平成」へ
- 6月 北京で天安門事件

- 国際盲導犬連盟第1回総会(イギリス ロイヤルレミントンSPA)
- 東京都が「ガイドヘルパーネットワーク事業」を開始
—社会福祉法人日本盲人会連合に事業委託
- 兵庫県盲導犬協会(現・社会福祉法人兵庫盲導犬協会)設立

- 厚生省、「障害者の明るいくらし促進事業」に盲導犬育成事業を追加
- 3月 横綱・千代の富士が大相撲史上初の通算1000勝達成
- 11月 天皇の即位に伴い、大嘗祭を行う

- 社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会(以下、日盲社協)が「盲導犬訓練施設設置運営基準等策定委員会」設置

- 4月 運輸省、ホテル・旅館等の利用について障害者への配慮を求める通達
- 1月 登山家・田部井淳子氏が女性として世界初の六大陸最高峰を登頂
- 2月 皇太子徳仁親王、立太子の礼を行う
- 4月 ペルシャ湾掃海派遣部隊出発(自衛隊初の海外派遣)

- 国際盲導犬連盟第2回総会(イギリス レディング)
- 9月 日盲社協の策定委員会で設置運営基準等3基準を策定、厚生省へ提出

- 11月 盲導犬の訓練を目的とする法人の指定に関する規則(国家公安委員会規則)、施行
- 6月 PKO協力法成立
- 12月 ノルディックスキーW杯で荻原健司が日本人初優勝

平成時代 特定公益増進法人として

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

1993
(平成5)

- 1月 第6代理事長羽田孜理事長、就任
- 8月 東京都府中市・慈恵院に「盲導犬の慰霊碑」を建立、慰霊祭を実施
- 9月 厚生大臣から「特定公益増進法人」として認定を受ける
- 9月 第1回 盲導犬育成チャリティ・ゴルフ大会(以後毎年開催)



第22回 盲導犬育成
チャリティ・ゴルフ大会の様子



1994
(平成6)

- 4月、6月 「あゆみの会」と親睦旅行を実施
- 6月 「あゆみの会」を「えみの会」へ改名



1995
(平成7)

- 6月 主たる事業所を東京都渋谷区内の渋谷本町へ移転
- 8月 仙台事務所開設(市庁舎内)
- 11月 「盲導犬チャリティーウィーク」を玉川高島屋にて実施
—ユーザーである写真家アリス・ウィングウォール氏による盲導犬写真展を開催



1996
(平成8)

- 茅ヶ崎訓練所で「パピーパーティー」開始
- 全国盲導犬施設連合会主催「盲導犬育成キャンペーン」参加



1997
(平成9)

- 5月26日 神奈川訓練センター開設



犬舎

- 6月 協会職員、全米最大規模の訓練センター「Guide Dogs for the Blind(GDB)」を見学



1998
(平成10)

- 「仙台訓練センター建設キャンペーン」実施
—東北6県でPR活動を展開
- 「誘導ボランティア養成講座」開催
—視覚障害者の社会参加促進



● 視覚障害・盲導犬関連

- 大蔵省、盲導犬育成団体を特定公益増進法人として認定

● 法律 ● 世の中

- 11月 「心身障害者対策基本法」改正により、名称が「障害者基本法」に変更
- 6月 皇太子徳仁親王と小和田雅子さんが結婚の儀
- 7月 第19回先進国首脳会議(G7)、赤坂迎賓館で開催

- 11月 全日本盲導犬使用者の会発足
- 国際盲導犬協会アセッサーに多和田悟(当時、関西盲導犬協会、現・協会理事)就任
- 国際盲導犬連盟第3回総会開催(イギリス レディング)

- 2月 H-IIロケット1号機、種子島宇宙センターで打ち上げに成功

- 韓国で「サムスン盲導犬学校」設立
- 4月 全国盲導犬施設連合会(現・認定NPO法人)8団体加盟で発足。12月にはアイメイト協会が脱退し7団体に

- 1月17日 阪神・淡路大震災発生
- 3月 地下鉄サリン事件発生
- 8月15日 第二次世界大戦終戦50周年

- 全国盲導犬施設連合会主催「盲導犬育成キャンペーン」開催
- 国際盲導犬連盟第4回総会開催(フランス クレモント フェランド)

- 7月 TBSドラマ「ラブの贈り物」放送開始

- 1月 全国盲導犬施設連合会、第1回「盲導犬訓練士養成研修会」を開催
- 国際盲導犬連盟、神奈川訓練センターを視察

- 2月 世界初クローン羊開発に成功
- 7月 TBSドラマ「ラブの贈り物2」放送開始

- 3月 日盲社協、盲導犬の「訓練基準」改定、3基準に2基準を追加し、厚生労働省に提出
- 5月 国際盲導犬連盟、日本盲導犬協会の加盟認可
- 日本財団「盲導犬に関する調査」報告を発刊(日比野清)
- 国際盲導犬連盟第5回総会開催(アメリカ カリフォルニア)

- 7月 日本初の火星探査機「のぞみ」打ち上げ成功

	● 協会の変遷	● 日本盲導犬協会の年度育成頭数
1999 (平成11)	<ul style="list-style-type: none">● 厚生省プログラム「子ども霞が関見学デー」に参加 (以降継続)	15
2000 (平成12)	<ul style="list-style-type: none">● 「インターネット募金箱」設置開始● 「えみの会」10周年記念パーティー開催	17
2001 (平成13)	<ul style="list-style-type: none">● 5月24日 仙台訓練センター開設  <ul style="list-style-type: none">● 9月 第7代理事長 高井伸夫、就任● 11月 「在宅歩行指導」を仙台訓練センターで開始● 常任理事、訓練責任者の離脱。年間育成頭数3頭となる● 一組織改革に着手し、立て直しを図る	3
2002 (平成14)	<ul style="list-style-type: none">● 9月 東京都渋谷区渋谷3丁目に事務所移転● 10月 東北6県対象「短期リハビリテーション」初開催● ボランティアの集い「あい☆ボの会」発足● 一情報交換会で親睦を図る● AGBN会議に協会職員を派遣	20
2003 (平成15)	<ul style="list-style-type: none">● 1月 会報紙『盲導犬くらぶ』年4回定期刊行へ● 2月 主たる事業所を神奈川訓練センターに移転● 3月 「設立35周年記念の集い」開催● 8月 「障害児キャンプ」初開催● // 「日本盲導犬協会ユーザーの会」発足● 9月 第8代理事長 井上幸彦、就任～新体制発足● 10月 仙台訓練センターにて「第1回さくまつり」開催● // 北陸訓練所が富山支所に名称変更● 12月 秋田支所開設● デモンストレーター(有償ボランティア)制度、開始● 一初の「盲導犬同伴デモンストレーション」開始	21

1999 2003

● 視覚障害・盲導犬関連

● 法律 ● 世の中

● 国際盲導犬連盟第6回総会開催(イギリス ワーウィック)

- 12月 「動物の保護及び管理に関する法律」が「動物の愛護及び管理に関する法律」に名称を変更し改正
- 4月 テレビ東京ドラマ「ハッピー・愛と感動の物語」放送開始(協会所属犬出演)

● 4月 全国盲導犬施設連合会、「盲導犬訓練士養成テキスト」発刊。当協会が作成に全面協力

- 6月 「社会福祉法」改正
—盲導犬事業を第二種社会福祉事業に規定
- 12月 動物の愛護及び管理に関する法律、施行
- 7月 テレビ東京ドラマ「ハッピー2 愛と感動の物語」放送開始(協会所属犬出演)

● アジア・ガイドドッグス・ブリーディング・ネットワーク(AGBN=Asia Guide Dogs Breeding Network)、設立

- 国際盲導犬連盟第7回総会開催(大韓民国 ソウル)
- 6月 日本補助犬協会(現・公益財団法人)設立

- 3月 USJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)開園
- 9月11日 アメリカ同時多発テロ発生

- 5月 「身体障害者補助犬法」成立、10月に施行
—盲導犬、聴導犬、介助犬の同伴受け入れ義務化(ただし公共施設に限定)
—同法成立にちなみ、5月22日を「ほじょ犬の日」と制定
- 5月 2002 FIFAワールドカップ開幕(日韓共同開催)

● 日本介助犬アカデミーより「補助犬受け入れマニュアル<事業者編>」発刊

- 4月 「身体障害者社会参加支援施設の設備及び運営に関する基準」施行
—盲導犬施設の設備・職員の配置等
- 10月 「身体障害者補助犬法」全面施行
—補助犬同伴受け入れ義務、民間施設へ拡大
- 6月 NHKドラマ「盲導犬クイールの一生」放送開始

平成時代 盲導犬の安定的生産へ

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

2004
(平成16)

- [2004～2008年度 中期5か年計画]策定
— “年間50頭育成”を目指す
- 2月 東京都渋谷区神泉町に事務所移転(現所在地と同じ)
- 4月 「盲導犬訓練士学校」開校
— 初代学校長に黒光庸恭、就任(現・協会副理事長)
- 7月 「ワン!ばくっ子サマースクール」開催
— 前年開始の障害児キャンプ継承
- // 井上理事長ら4人、イギリス視察へ
- 10月 盲導犬育成センター「富士ハーネス」建設計画発表
- // マンスリー会員制度および会費の口座自動引き落としシステムを導入
- 協会ホームページ公開開始



2005
(平成17)

- 協会公式メールマガジン配信開始
- 「目指せ盲導犬訓練士!ファミリー・サマーキャンプ」開催
— 仙台市、前橋市、富士宮市の3か所
- 「協会ミッション策定プロジェクト委員会」発足
- 「日本身体障害者補助犬学会」設立準備協力
— 以降、協会が事務局として運営協力
- 寄付管理データベースシステム導入
- 4月 協会広報部門として普及啓発部に広報室を設置



2006
(平成18)

- 「身体障害者補助犬法と補助犬の受け入れを考える会」開催(仙台)
- 1月 日本身体障害者補助犬学会第1回学術大会で協会職員が発表
- 4月 協会ミッション策定
- 7月 学生向け「短期視覚障害リハビリテーション」初開催
- **10月16日 日本盲導犬総合センター「盲導犬の里 富士ハーネス」開設**
— 子犬・PR犬・引退犬収容、分娩施設と親子棟を完備し、日本初の常時見学可能な訓練施設
— 開設記念イベント3日間実施



- ボランティア登録制度開始



2004  2006

● 視覚障害・盲導犬関連

- 5月 国際盲導犬連盟理事に中野隆敏(当時・協会理事)が就任(2012年まで)
- // 国際盲導犬連盟第8回総会開催(スイス レンク)
- 日本介助犬アカデミー(現・特定非営利活動法人日本補助犬情報センター)による「補助犬受け入れマニュアル<医療機関編>」発刊

● 法律 ● 世の中

- 6月 「障害者基本法」改正
— 障害者の「完全参加と平等」を目指す
- 1月 自衛隊イラク派遣開始
- 3月 映画「盲導犬クイールの一生」公開
- 8月 サッカーアジアカップ(北京開催)で日本優勝

- 6月 盲導犬歩行指導員等養成「カリキュラム調査委員会」設立
- 9月 日本身体障害者補助犬学会設立

- 4月 「個人情報保護に関する法律」全面施行
- 10月 「障害者自立支援法」成立
- 3月 愛知万博「愛・地球博」開幕
- 4月 JR福知山線脱線事故が発生

- 1月 日本身体障害者補助犬学会主催第1回学術大会開催
- 「日中友好盲導犬プロジェクト」始動
- 国際盲導犬連盟第9回総会開催(アメリカ ニューヨーク)

- 10月 「障害者自立支援法」の完全施行
- 12月 国連総会「障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)」採択
— 以降、批准に向けて国内の動きが活発化
- 12月 都道府県の県庁所在地で地上デジタル放送の受信が可能に

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

2007
(平成19)

- 3月 「訓練士学校」第1期生8人が卒業、4月から訓練士として協会に就職
—卒業後に盲導犬訓練士資格が付与される
- // ボランティア委員会が第1回「ボランティアミーティング」開催
- 「補助犬受け入れセミナー」を東北・北陸などで開催
—補助犬法の周知と受け入れを推進
- 普及活動「中四国キャラバン」活発化
—職員らが各知事訪問、県庁前等でデモンストレーション
- 東北・中国・四国地方など県庁・市役所を計14か所訪問
- こども病院訪問「盲導犬とのふれあい」初開催
(湘南東部総合病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)
- 理事長ら4人が中国訪問
- 8～11月 協会設立40周年記念イベント「インフィオラータ」全国4か所で開催



こども医療センター訪問



2008
(平成20)

- 1月 盲導犬施設連合会が策定した「盲導犬歩行指導員資格認定制度」を導入
- 6月 島根あさひ盲導犬パピープロジェクトに関する記者発表およびシンポジウム開催
- 9月 富士ハーネスに盲導犬のお墓「チャネルホーム」建立
- 10月1日 「島根あさひ訓練センター」開設
—法務省管轄PFI事業、社会更生貢献事業として
- 「第17回視覚障害リハビリテーション研究発表大会」で協会職員が大会長に就任
- 普及活動「学校キャラバン」活発化



島根あさひ盲導犬訓練センター
(中庭)



2009
(平成21)

- 3月 年間育成頭数50頭を初達成(2008年度)
—中期5か年計画(2004～2008年度)目標到達
—全国8団体における最多育成頭数を記録
- 「2009～2015年度 中期7か年計画<骨太の方針>」策定
—「徳のある協会」へ
- 3月 訓練部データベースシステム導入
- 4月19日 皇太子同妃両殿下、神奈川訓練センター視察
- 4月 第1期島根あさひ盲導犬パピープロジェクト開始
- 職員の意識向上を目的にQCサークル活動を開始
- 5月 神奈川訓練センター改修
—服従訓練室を廃止、訓練犬に目が行き届きやすい構造へ
- 「富士ハーネス」で初の凍結精液による子犬誕生



● 視覚障害・盲導犬関連

- AGBN「繁殖セミナー」(神戸開催)
- 国際盲導犬連盟が定期査察(5年毎)実施
— 神奈川訓練センターと富士ハーネスを査察、継続登録を認定

● 法律 ● 世の中

- 12月 「身体障害者補助犬法」改正
— 補助犬同伴に関し都道府県が相談窓口設置、一定規模以上の企業の身体障害者受け入れ義務化
- 3月25日 能登半島地震発生

- 国際盲導犬連盟第10回総会開催(イギリス ロンドン)当協会4人参加
- 9月 全国盲導犬施設連合会情報誌「盲導犬情報創刊号」発刊

- 6月 秋葉原無差別殺傷事件発生
- 9月 アメリカ大手投資銀行リーマン・ブラザーズが経営破綻(リーマン・ショック)

- 日盲社協「盲導犬訓練基準集」再改訂、訓練基準を追加

- 5月 日本の薄型テレビの普及率が過半数を超える(総務省統計)
- 7月 「日本最初の盲導犬」が文藝春秋より発刊(葉上太郎著)
- 7月22日 21世紀で最も継続時間の長い皆既日食、日本や太平洋の島で観測
- 10月 NHKドラマ「チャレンジド」放送開始

平成時代 選ばれる盲導犬、選ばれる協会へ

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

2010
(平成22)

- 5月 中国「上海万博パビリオン」から招致
—ユーザー2人ほか職員ら計5回の補助犬デモンストレーション実施
- 6月 第1回「新盲導犬ユニット出発式」開催
—盲導犬育成事業から視覚障害者サポート事業へ
- 10月 仙台訓練センター「開設10周年記念式典」開催
- 10月27日 「公益財団法人日本盲導犬協会」として
内閣府から公益認定を受ける
- 12月 第1回「富士ハーネス キャンドルナイト」開催
- 実演・講演など年間啓発活動が初めて2,000回を超える



2011
(平成23)

- 3月 東日本大震災により仙台訓練センターが被災
—同センター業務全面停止
—全訓練犬を神奈川訓練センターへ移送
—仙台訓練センター内に「東日本大震災 視覚障害者支援対策本部宮城県支部」が設置され、支援活動に全面協力を行う
- 4月 東日本大震災「盲導犬ハート募金」開始
- 5月 訓練犬を仙台訓練センターに戻し訓練再開
- 9月 通常業務再開
- 協会内規「バランススコア・カード」策定
—SWOT分析活用で体制整備へ
- 全国盲導犬施設連合会の訓練士養成テキスト(DVD版)発刊に協会が全面協力



3月26日、石巻市内。
支援車両から撮影



2012
(平成24)

- 1月 クレジットによる会費・寄付金決済システムの導入
- 3月 「東日本大震災 視覚障害者支援対策本部」より感謝状が授与される
- 4月 新「センター長体制」発足
事業部中心から4センター中心運営へ
- 訓練士養成評価制度「スキルマップ」を導入
- ハーネスの右手持ち併用の訓練を導入
- 4月 「渋谷ハチ公盲導犬パレード」開催。188人24頭が大行進
- 9月 仙台で「どこでもウェルカムパレード」開催
- 11月 「横浜盲導犬パレード」開催
- // サイトワールドに初出展



2013
(平成25)

- 「リハビリテーション事業部」を「ユーザーサポート部」へ組織変更
—盲導犬を必要とする方への情報提供充実
- 4月 厚生労働大臣より東日本大震災における視覚障害者支援活動に対し感謝状が授与される
- // 島根あさひ盲導犬パイププロジェクト第1号盲導犬誕生。6月に法務大臣表敬訪問し報告
- 12月 日本初のホワイトシェパードの盲導犬誕生



2010  2013

● 視覚障害・盲導犬関連

- 6月 国際盲導犬連盟第11回総会開催(カナダ オタワ)当協会6人参加
- 全国盲導犬施設連合会が「育成カリキュラム」作成
- 12月 バーハンドル型ハーネス(協会開発)が道路交通法の改正により正式に認められる

● 法律 ● 世の中

- 12月 「障害者自立支援法」改正案成立
- // 「道路交通法」施行規則第5条の2
—盲導犬の用具一部改正。バーハンドル型のハーネスも適用となる
- 6月 小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワのサンプルリターンに成功
- 9月 尖閣諸島の日本領海内で中国漁船が海上保安庁巡視船と衝突
- // 映画「パートナーズ」公開

- 社会福祉法人日本盲人福祉委員会(日盲委)が「東日本大震災 視覚障害者支援対策本部」を設立
- 国際盲導犬連盟セミナー2012年開催地が東日本大震災の影響で東京からパリに変更される
- 豪日交流基金助成プログラム
—クイーンズランド盲導犬協会から候補子犬4頭来日

- 7月 「障害者基本法」改正、8月施行
—障害者の定義変更
- 3月11日 東日本大震災発生
- 7月 地上デジタルテレビ放送へ全面移行(東日本大震災の被災3県を除く)

- 国際盲導犬連盟第12回総会開催(フランス パリ)当協会7人参加
- 5月 国際盲導犬連盟理事に勅使川原直彦(現・協会理事)が就任(2016年まで)

- 6月 「障害者総合支援法」成立
—従来の自立支援法は廃止、障害者福祉は「自立促進」から「人権尊重」へ
—重度訪問介護の対象者拡大も、盲導犬育成事業は自立支援給付金の支給対象外
- 9月 「動物愛護管理法」が改正
—生後56日以内の犬猫の展示・販売を禁止
—盲導犬育成事業者は「第二種動物取扱業者」となる
- 5月 東京スカイツリーオープン

- 4月 全国盲導犬施設連合会理事長に井上幸彦(現・協会理事長)が就任
—関連団体機関との連携強化へ
- // 日盲社協の評議員に吉川明(現・協会理事)が就任
- 「補助犬受け入れマニュアル」作成
- 9月 一般財団法人全国盲導犬協会設立

- 4月 「障害者総合支援法」施行
- 6月 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」成立
—障害を理由にした差別の禁止、合理的配慮の一部義務化を規定「合理的理由がなく盲導犬同伴での入店拒否」は差別に相当
- 8月 ニューヨーク・ヤンキースのイチロー選手が史上3人目となる日米通算4000本安打達成

● 協会の変遷

● 日本盲導犬協会の年度育成頭数

2014
(平成26)

- バーハンドル型ハーネスの提供開始
- 5月 国際盲導犬連盟セミナーで協会がホスト団体として運営を担当
- 7月 ACジャパンによる「盲導犬CMキャンペーン」開始、テレビ放送およびポスター街頭掲示(2017年6月まで3期にわたり継続)



2014年



2015年



2016年



2015
(平成27)

- [2015～2017年度 中期3か年計画]策定
一良質な盲導犬を安定的に年間50頭育成体制へ
- 4月 視覚障害リハビリテーション協会の事務局業務を受託
- // 「盲導犬訓練士学校」休校へ
- 9月 北里研究所との動物介在医療に関する連携・協力の協定書に調印
- 10月 「目の不自由な方のためのはじめてのiPhone使い方教室」をソフトバンク株式会社と開催(Apple銀座、以降毎年開催)



2016
(平成28)

- 2月 第1回盲導犬育成ジャパンセミナー開催に全面協力



- 4月 「白杖歩行指導員養成課程」開設
一訓練士による視覚障害者歩行の理解促進、歩行指導技術向上を目指す
- 5月 盲導犬訓練研修生、研修開始
一大卒者を対象にゼミナール形式で訓練士を養成
- 国内唯一となる全盲ろうユーザー誕生
- 「6歳時コミュニケーション会」を初開催
一盲導犬使用の中間・犬6歳におけるユーザー向け情報提供
- 初の小学生向け「短期視覚障害リハビリテーション」開催



2017
(平成29)

- 1月 訓練士がろう向け共同訓練を視察のためニューヨーク訪問
- 8月10日 日本盲導犬協会設立50周年
- 10月6日 50周年記念式典開催、レガシー事業始動



7月未現在

● 視覚障害・盲導犬関連

- 5月 国際盲導犬連盟第13回総会開催(日本 東京)
協会職員56人、総数289人参加

● 法律 ● 世の中

- 1月 国際権利条約「障害者の権利に関する条約」日本批准
- 2月 関東・甲信地方を中心に記録的大雪

- 3月 北陸新幹線、長野一金沢間の運転開始
- 10月 ノーベル生理学・医学賞に大村智氏、ノーベル物理学賞に梶田隆章氏
- 12月 2020年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の再選定で、建築家の隈研吾氏の提案に決まる

- 国際盲導犬連盟第14回総会開催(クロアチア フヴァル)当協会10人参加
- 2月 全国盲導犬施設連合会が第1回盲導犬育成ジャパンセミナー開催(神奈川訓練センター)
—全国の訓練士による事例発表と共有
- 5月 国際盲導犬連盟理事に小田和正(現・協会常任理事)が就任
- 8月 東京メトロ青山一丁目駅で盲導犬ユーザーがホームから転落死。その後、静岡と埼玉で2件のホームからの転落事故発生。社会問題に
—事故再発防止に向け、国土交通省が鉄道事業者に対し「ホームドアの設置前倒し、駅乗務員による声かけ奨励」を通達
- 11月 日盲社協の自立支援部会による研修会開催に全面協力

- 4月 「障害者差別解消法」施行
—成立から3年の準備期間を経て
- 5月 第44代米国大統領バラク・オバマ氏が広島市を訪問
- 8月 NTV24時間テレビ「盲目のヨシノリ先生」ドラマ放送

- 日盲社協「盲導犬訓練基準集」改訂(3度目)
—5基準を3計画にし、国家公安委員会に提出
- 2月 全国盲導犬施設連合会主催、第2回盲導犬育成ジャパンセミナー開催(神奈川訓練センター)

- 6月 将棋の藤井聡太四段が公式戦の新記録となる29連勝を達成。歴代最多28連勝を30年ぶりに更新
- 7月 東京都議会議員選挙、都民ファーストの会が公認候補50人中49人が当選する大勝利



JAPAN GUIDE DOG ASSOCIATION
J.G.D.A. Est. 1967